

ロータリー米山奨学生としての感想

皆さん、こんにちは。平成 21 年度のロータリー米山奨学生の劉国華です。採用されてからそろそろ一年になります。この一年間、小林カウンセラーを始め、クラブの方々に本当にお世話になりました。そして、一か月一回の例会に参加させて頂くことによって、皆さんの奉仕の精神を凄く感じました。分野の違いにも関わらず、皆さんは時間と金銭を出して週一回に集まることは最初よく理解できなかつたです。皆さんのお話を聞きまして、だんだん分かってきました。その理由は、皆さんが持っている同じな目的、社会奉仕の実現だと思います。

この奨学金は、私の留学生活に経済的に助かることはもちろん、国際的な交流や理解など貴重なイベントを経験させました。また、毎月のロータリーの友という雑誌を読んで、ロータリーアンは世界の親睦、理解、平和のために非常に素晴らしい奉仕活動していることが分かりました。一年間の奨学生生活は短いですが、私の一生にとって大きな財産になると思います。この奨学金のおかげで、私は、学習に集中でき、環境微生物に関する研究を順調に進めてきました。この研究は将来、自然環境の変動を把握することや一般的な生態系をより理解することが期待され、また、環境浄化への活用にも役に立つと思います。平成 22 年 2 月 2 日 10 時 30 分～12 時、横浜国立大学工学研究院において、博士論文の内容と口頭発表の本審査が行われて、合格することができました。

ロータリーの奨学金生活が終了しても、私はロータリーの奉仕の精神というものは忘れることができません。研究に取り組みながら、社会貢献し活躍をしていきたいと思っております。また将来、中国に帰って、懸け橋として中国と日本の相互理解や友好を深めることを目指し、努力していきたいです。

一年間、ご支援をいただき、誠にありがとうございました。これからも頑張りますので、宜しく願いいたします。

2010 年 3 月 3 日